

令和4年度 目黒日本大学中学校高等学校 自己評価票

〔本校の目指す学校像〕

本学園の建学の精神である「質実剛健・優美高雅」、また、教育理念「しなやかな強さを持った自立できる人間を育てる」を基として、「日本大学教育憲章」に定める「日本大学マインド」及び「自主創造」を教育方針に反映させ、付属校として「日本大学」の名にふさわしい学園づくりを実施し、生徒一人ひとりの個性を磨き込み、時代に流されない人間力と知性を併せ持った、輝く人材を育成する。

〔本校の特長〕

本学園は、平成29年12月4日、日本大学と準付属校契約を締結し、平成31年4月から校名を日出中学校高等学校から目黒日本大学中学校高等学校に変更した。そして令和2年4月から学校法人名を学校法人日出学園から学校法人目黒日本大学学園に改称し、中学校、高等学校全日制課程、高等学校通信制課程及び幼稚園を展開している。

中学校・高等学校は、自ら考え、自分なりの答えを導き出すPDCAサイクルを積み重ね、「探究学習」、「ICT教育」を積極的に取り入れることにより、将来のキャリアを切り拓く力を育成する。特に、中学校においては、6年間の中高一貫教育を実施。高等学校全日制課程においては、2つのコース（進学コース、スポーツ・芸能コース）、5つのクラス（中高一貫クラス、選抜クラス、N進学クラス、スポーツクラス、芸能クラス）、高等学校通信制課程においては、3つのクラス（アドバンスクラス、スタンダードクラス、芸能スポーツプロフェッショナルクラス）をそれぞれ設置し、生徒一人ひとりの目標に合わせた教育を実施している。

日本大学との高大連携事業では、各学部による校内説明会やキャンパス見学、経済学部をはじめとする科目等履修生による入学前単位習得を実施しているほか、高校2学年IP（探究）授業においては、生徒が選択した学問分野に関連する学部・学科を訪問し、個別のレクチャーを受ける等の豊富な取組を展開している。

〔本校の課題〕

- ・学校ルーブリックの活用により、本校教育理念に基づいた生徒育成の達成状況を把握し、必要に応じて教育内容の柔軟な見直しを検討する。
- ・新しい大学入試の状況を把握し、生徒の求めにあった進学指導を実現するため、校内外の研修会への積極的に参加するとともに、校内において進路検討会議を展開する。
- ・校内での教員研修を充実し、教員の指導力向上（未来社会に即応した中学高校教育の在り方、大学入試に向けた最も合理的で適切な指導法の確立）を図る。
- ・SNSを活用した、受験生やその保護者へのタイムリーな情報発信サービスを徹底する。
- ・生徒会指導部による、地域との共生に関し、主体的かつ共生的な地域活動の機会創出を推進する。

令和4年度の取組結果

〔概況〕

・学園

学園資産の一部損失に係る一連の件を教訓に、理事会を中心とした健全な学校法人の運営ができるよう、再構築された学園全体のガバナンス体制を更に強固なものとするため、規程等の見直し・整備、理事及び評議員定数拡大を実施し、文部科学省における学校法人ガバナンス改革に向け取り組んだことにより、名実ともに『新目黒日本大学学園』として軌道に乗せることができたのではないかと思料している。

また、令和7年4月1日付 学校法人のガバナンス改革を軸とする私立学校法の改正が控えているため、この

再構築されたガバナンス体制を維持しつつ、法改正に則した、迅速かつ効率的な法人運営を目指すよう準備することが求められるとともに、一連の事件に関する刑事告訴を含めた損害賠償請求訴訟等について引き続き対応が求められた。また、平成28年3月に本学園が提訴した宅地境界確定等請求事件については、ようやく和解が成立することとなった。

・中学校

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響も少し和らぎ、1年生の鎌倉・浅草訪FW、2年生の多摩川水質・水生生物調査、3年生のTGG（東京グローバルゲートウェイ）訪問、SDG's フィールドワークなどを通じて、生徒が直接に見聞する体験を実施することができた。それらの活動により、普段の学習活動へのモチベーションの向上及び協調性や帰属意識の醸成を図ることができた。また、宿泊行事も実施することが出来、1年生のオリエンテーション合宿、2年生の林間学校、3年生のオーストラリア短期留学などようやく本来の行事を実施できるようになってきた。

イレギュラー対応であったが、学校の通信環境が整い、オンライン授業（Zoom, Teams）を学園全体で実施することができた。また、ウィークリーテスト（国語・数学・英語）における不合格者や、各科目における提出物未提出者をそのままにせず、学習支援センター等を活用して生徒のフォローアップを実施することができた。学力上位者層の引き上げを達成するための主たる施策である「特別課外講座」は、新型コロナウイルス感染症の影響も少なからず受けたが、昨年度に比べるとしっかりと開講することができた。

オンライン授業や部活動の自粛等が今年度も多少あった影響により、生徒の心理的なストレスが増加傾向であるのは変わらなかった。その対応として、教育相談委員会での定期的な報告及びスクールカウンセラーとの密な連携をもとに、生徒の変化に気付くことができる体制強化が今年度も構築できた。

探究活動については、生徒の各グループによる調査・探究活動、プレゼンテーションを実施することができ、思考力・判断力・表現力及びコミュニケーション能力の育成に一定の効果をみることもできた。年度末の発表コンクールでも素晴らしい発表を垣間見ることが出来た。先にも述べたが、各フィールドワークも今年度はすべて実行することが出来たことによる効果と言える。

・高等学校全日制課程

日本大学への進学者増加を目標として、「基礎学力到達度テスト」への特別授業を始めとし、豊富に展開している日本大学との高大連携事業等の取組により、日本大学進学への動機づけ及び帰属意識の醸成、進学意欲の向上を図ることができた。その結果、目黒日本大学高等学校1期生（令和3年度卒）及び2期生（令和4年度卒）の日本大学進学率が2年続けて70%以上に達するなど、生徒の希望進路を実現することができた。

新型コロナウイルス感染症への対応については、より円滑なオンライン授業を展開するために、新たにTeamsを全校にて整備し、いかなる状況においても、生徒の学びを止めることなく運営することができた。体育祭やすずかけ祭などの学校行事、高校1年生オリエンテーション合宿や高校2年生沖縄修学旅行などの宿泊行事についても、感染対策を講じながら全面的に実施することができた。ただし、昨年度から引き続き、生徒の心理的ストレスの増加はみられたため、生徒アンケートに実施や教育相談委員会の定期開催等、生徒の変化にいち早く気付くことができる体制強化に努めた。

・高等学校通信制課程

令和2年度の在籍者数は前年度と比べ急激に減少したが、令和3年度とそれに続く令和4年度にかけて教育内容の充実を図ることと、効果的かつ継続的な広報活動を行うことにより、新入生・転編入生の人数が増加し、以前に比べても多くの生徒が本校に通うこととなった。特に、日本大学への進学に特化したアドバンスクラスのニーズは急増しており、令和5年度の高校1年生からはアドバンスクラス2クラス制に移行し、入試においても出願者数、受験者数、入学者数ともに30%程度の増加となった。

各担任による進路指導（進級、卒業、進路決定）においても、個々の生徒の実情に合わせたきめ細やかな指導を行っており、徐々に日本大学に進学する生徒が増えてきている。

また、生徒会活動においては、通信制課程初の生徒会選挙を実施し、その過程で選ばれた生徒会役員の生徒

を中心に、体育大会や学校説明会での手伝いなど、例年以上に活発な活動を行っている。また、部活動は通信制独自の活動と、全日制の生徒と合同で行っているものもあり、さらに、外部団体で活動している生徒がいるが、テニスの全国大会出場、さらにフィギュアスケートにおいては、全国大会のみならず、世界大会において優秀な成績を残す生徒もいた。

学校行事としては、コロナ禍により3年間中止となっていた希望制の研修旅行を北海道で実施し、多くの生徒が参加するなど、以前の活気を取り戻しつつある。

教育活動

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
新学習指導要領への対応	高校の令和5年度のカリキュラムが完成している。高校1年次は、国公立大学への進学を目指す中高一貫クラスと、日本大学への進学を目指す進学コース、土曜日がないスポーツ芸能コースの3種類で、高校2年次からは、文理選択を行い、合計5種類（スポーツ芸能を文系のみ）となる。 総合的な探究の時間について、以前からの取り組んでいる企業インターワークを実践しており、3チームが全国大会に進出した。	A
高大接続改革	日本大学スポーツ科学部、芸術学部、経済学部を加え、本校の探究活動（高校2年IPゼミ、高校3年リベラルアーツ）の授業の中で連携を図ることができた。今年度から、経済学部の進学を希望する者や興味のある生徒を対象にした大学の講座が受講できるが、受講希望者は少ない。	B
学力向上・定着	学力の定着を図るため、4つの取り組みを行った。 ① 定期試験の振り返りは、生徒のみが行うのではなく、教科担当者も行った。各クラスの試験の振り返りと次回に向けてのアドバイスをすることで、生徒の助けになるものを作成した。また、これらは保護者にClassi配信した。 ② 長期休暇中の課題に対して、休暇明けに各教科が確認テストをすることで、基礎学力の定着を図った。 ③ 基礎学力の定着を図るため、特別時間割を編成した。高2を4月、高3を4月と9月に実施した。 ④ 年に2回（7月、12月実施）、生徒に対し、各授業の授業満足度アンケートと、教員に対し、各自の授業の振り返りアンケートを行った。これらのアンケート集計をもとに、各自の「強み」や「課題」について振り返り分析を行い、さらに各教科での教科会で、各教科の「強み」と「課題」をまとめた。全体では、「予習復習」の定着を図ることと、「学力向上」の2点を重点項目とした。	B

※【A達成できた、B大体達成できた、Cあまり達成できなかった、D達成できなかった】

学校生活への配慮

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
いじめ体罰（暴言・暴力）防止のための取組	①教育相談委員会・いじめ防止対策委員会と連携を強化した。 ②年2回のいじめ防止アンケートを実施した。 ③いじめ防止のリーフレットを配布した。 ④SNS関連の講演会（生徒・保護者・教員）を実施した。 ⑤教員研修を実施した。	A
教職員の統一的な指導	・教育相談関連の外部教員研修への積極的に参加した。 ・外部講師による講演会や校内研修を実施（教員間で価値観の共有、職場内教育）した。	B
生徒への価値観指導	生徒にテーマを与え、（挨拶・校則・SNS関連・成人年齢引き下げなど）ケース	B

	スタディやアイスブレイクを実施し、適格な「判断力」を身に付けさせた。	
--	------------------------------------	--

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

課外活動

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
部活動加入率【目標数値75%】	中学校99% 高校84%	A
体育祭満足度【目標数値4.1以上】	4.5	A
文化祭ホスピタリティ【目標数値3.5以上】	3.8	A
文化祭クラスへの帰属意識【目標数値3.5以上】	4.1	A
学校生活アンケート(高3)【各項目3.5以上】	「明るい」4.3 「優しい」4.5 「忙しい」3.9 「前向き」4.0	A
学校生活アンケート(中1～高2)【各項目3.5以上】	「明るい」4.4 「優しい」4.4 「忙しい」3.7 「前向き」3.5	A
NU祭での入賞【3本以上の入賞】	文芸コンクール 佳作1名	D
ブログの配信【中学24件 高校24件】	中学0件 高校4件	D

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

進路指導

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
日本大学への進学者数増加に向けた取組	日本大学への内部進学者が令和3年度に引き続き、2年連続で200名を突破した。また、内部進学率は71%と70%を超えた。	A

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

保健衛生

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
安全教育の徹底	教職員に向けた薬物乱用防止教育研修を行うことができた。 予防啓発活動としての発行物は計画どおり行われた。	B
安心な環境の確立	分掌の連携として教育相談委員会、保健衛生部を核とした学年との連携は定例会を通じて図られた。	B
安全教育の研究	教職員対象の救命講習を行うことができた。 いじめ防止アンケートの実施および対応は計画通り行えた。	A

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

図書

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
読書活動の推進	年間貸出冊数 983 冊（令和 3 年度）から 971 冊になった。	C
ICT スキルの向上	AppleTV を全教室に設置し、授業等で活用した。	B

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

広報

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
募集定員の充足	目黒日本大学中学校高等学校となり、受験生の 5 年間のイベント参加数および入試実績も各年の数値で昨年を上回る実績となっている。結果、中学校は 614 名の出願は過去最高で、のべ 1464 の出願であった。111 名の手続きがあり 3 クラスでスタートできることができた。高等学校は初めて 3 クラスの内部進学を受け入れ、外部受験からも 239 名が推薦入試での受け入れであったことは大変評価できる。 しかし、募集要項の 315 名の定員は充足したものの、10 クラスの予定が、急遽 11 クラスの対応を取らざるを得なかった。次年度の一般入試に課題を残す結果となった。	B
広報活動の質向上	広報部の業務を広報委員会やボランティアなど、生徒のお手伝いに大変救われた。年々制度が上がっていることは、担当教員の指導の賜物であるので次年度以降にもしっかりと引き継いでいきたい。そのような引継ぎに関しても、各イベントに対して担当を立ててタスクブレイクしていく。 「YouTube Live」での学校説明会は今後も続けていく必要はある。この施策は受験生・保護者以外にも、受験学年でない方々にも視聴していただけたことは大変、評価できる。 また、公式 LINE アカウントを導入したことにより、LP などこちらが掲げるテーマを時期に合わせてタイムリーに発信できたことも評価できた。次年度もこちらは継続し、受験生に寄り添った本校の情報を発信していく。	A

※【A達成できた, B大体達成できた, Cあまり達成できなかった, D達成できなかった】

管理運営(分掌・会議・委員会、財政、施設・設備等)

評価項目	取組結果・進捗状況	達成状況
法人事務	理事会、評議員会、執行部会の運営、日本大学本部、東京都、目黒区への対応、公文書、公印管理、議事録作成、各種規程の改廃、法人保険取扱等、法人業務を実施した。 その他、令和 2 年度に起きた学園資産の一部損失に係る刑事告訴、損害賠償請求訴訟への対応、また、平成 28 年 3 月に本学園が提訴した「宅地境界確定等請求事件」に関しては、和解が成立した。	B
総務事務	(庶務) 園児・生徒在籍管理、就学支援金・奨学金等保護者負担軽減事務、各種証明書発行、教科書発注、生徒保険取扱、幼稚園事務全般を実施した。政府による新型コロナウイルス感染症対策の緩和措置に伴い、事務手続き等に当たっては、徐々に通常業務へ移行した。 (人事) ① 人事・採用、労働組合関係、労務管理、福利厚生、給与、人事計画案作成を実施した。今年度の専任教諭等の採用者数は 1 名で、退職者も 1 名となっていることから、専任教員等の内訳は、中高 70 名、幼稚園 17 名、外国語指	B

	<p>導助手4名の合計91名（校長，園長含む）である。</p> <p>また，働き方改革の一環として，教学支援のために3名（派遣社員）を職員室内に配置し，教員の業務負担の軽減を図った。</p> <p>② 働き方改革の一環として，職場環境の現状把握や改善を図るため目安箱を設置した。</p> <p>③ 令和4年度より高額な年会費を支払っていたグランドハイメディック倶楽部を退会し，日本大学健診センターでの健康診断を主とした。実施時期は昨年と同様7～9月とし，専任教職員等の受診率は約98%となった。</p>	
管財事務	<p>① 総合棟2階の第1選択室・書道準備室等を普通教室へ改修した。 ⇒既設の普通教室と遜色ない仕様変更を期日内に実施した。</p> <p>① 空調機の更新計画を作成した。 ⇒令和5年度1期工事（室外機5台，系統室内機38台更新） 令和6年度2期工事（総合棟系統全箇所） 令和7年度3期工事（教室棟系統全箇所） ※令和6年度以降は補助対象経費の割合により延期も想定する。</p> <p>③ 光熱費管理 ⇒全熱交換器，暖房便座，給湯器のタイマー設定により夜間電気使用量を削減した。 ⇒教室のエアコン温度設定を明確にすることにより光熱費軽減となった。 ⇒自動販売機を4台削減し，電気使用量を抑えた。また販売価格を下げたことにより販売本数は25%増加した。（106,000本販売）</p>	A
経理事務	<p>① 業務マニュアル等を作成した。</p> <p>② 予算管理システムと会計システムの連携等を行った。</p>	B

※【A達成できた，B大体達成できた，Cあまり達成できなかった，D達成できなかった】

令和5年度の改善取組項目及び方策

教育活動

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
新学習指導要領の対応	今年度，生徒が自己評価できるための，ルーブリック作成をした。行事ごとに目標を立て，「何ができるようになったか」を明確化することで，主体的な学びができるよう実現していく。さらに，特別活動等を通じて，社会に関わる取り組みを増やす。放課後や土曜日の午後に，希望者を募った活動を行う。	4月：各学年の経営案の中に，ルーブリックの中にある項目を選択し，目標を明確化する。学校行事ごとに，目標を細分化し，行事終了後，アンケートを実施する。
高大接続改革	教頭，事務局と連携を密に取り，日本大学の各学部と高大接続を行う。特に，高校2学年IP授業担当者，高校3年リベラルアーツ担当者を中心に，学校設定科目の充実を図る。生徒のフィールドワークを行うことで，大学教授と連携を図り，学園の核となるように構築する。	大学関係者と連絡を取り，打ち合わせや事業計画を練る。（要相談）
学力向上	① 4月，9月に行われる基礎学力到達度テスト前に，特別授業を行い，基礎学力到達度テスト対策をする。	① 7月，12月の学期末に基礎学力到達度テストに向けた課題を課す。 9月，1月に課題の確認テストを課す。

	② 6月に研究授業を実施し、自教科・他教科の良い取り組みを共有する。 ③ 定期試験の振り返りを徹底し、細かな声かけで、生徒のやる気を引き出し、得意分野はさらに得意にし、苦手分野を自ら克服できるような施策を練る。(教科主任会) ④ 強制(宿題)ではなく、任意の課題に取り組みせ、自主性を重んじる。(教科主任会) ⑤ 基礎学力到達度テストの入試教科は、毎学期の初めに確認テストを実施する。	
--	---	--

学校生活への配慮

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
生徒への価値観指導	生徒にテーマを与え、(挨拶・校則・SNS関連・成人年齢引き下げなど) ケーススタディやアイスブレイクを実施し、適格な「判断力」を身に着ける。	4月・9月・1月に学校行事(修学旅行・文化祭・体育祭など)と関連させて実施する。
教職員の統一的な指導	教育相談関連の外部教員研修への積極的参加 外部講師による講演会、校内研修の実施(教員間で価値観の共有、職場内教育)	随時 7月・12月
インターネット・リテラシー教育	①オリエンテーション及び保護者会 ②生活指導講話 ③生活指導だより ④担任によるホームルームでの指導 ⑤SNS・スマホアンケートの実施(年4回)	①4月オリエンテーション前(始業式) ④各学期期末試験最終日(仮) ⑤アンケートの結果を保護者向けのSNS講話でも活用し、家庭と連携したSNSに関する価値観指導を行う。

課外活動

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
「優しい」に関わる企画の実行と地域活動の促進	地域活動(お祭りや清掃活動、高齢者施設や児童養護施設への慰問など)を通して他者への思いやりの気持ちを育み、エコ活動や環境への配慮を考えた取り組みにつなげていきたい。	12月末までに5件の地域活動、3件の「優しい」に関わる活動を目標としたい。
高大連携	日本大学各学部の学園祭への訪問、学生との交流を企画し、進学意識の向上に努めたい。	11月末までに3件の学園祭の訪問、8月末までに1件の学生との交流企画を目標としたい。

進路指導

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
日本大学への進学者数増加に向けた取組	・各種講習による基礎学力の向上 ・校内説明会やキャンパス訪問による生徒の進学意識向上	各時期の講習や進路行事を通して通年で養っていく
国公立・難関私大合格者増加に向けた取り組み	・難関校の受験に向けた教科指導のサポート ・進路指導に必要な資料の提供 ・生徒の意識向上のためのガイダンス	日々の授業と模擬試験を通年で養っていく

保健衛生

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
安心な環境の確立	学校安全計画と学校保健計画の立案 ・管理と教学が連携し危険個所の早期発見と早期改善を徹底し安全な環境整備に当たる。 ・心身の健康に関する教育の実践と予防活動を推進する。	学校安全衛生委員会の定例会を行う。 保健衛生部会の定例会を行う。
安全教育の研究	保健室・生徒支援室の来室傾向の共有と生徒対応の実践をする。	教育相談委員会との連携を図る。

図書

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
読書活動の推進	IPや教科と連携し、生徒や教員に必要な資料を提供する。	通年
I C Tスキルの向上	教員研修を実施する。	全体（年1回）、任意（年2回）

広報

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
募集定員の充足	中高共に募集定員を充足する。 (中学 105 名, 高校 350 名※内部進学生含む) (1) 各説明会参加者人数が昨年比以上かつ新規受験者の参加率が昨年の 120% を目標とする。対面のイベント機会を逃さない。 (2) HP の更新頻度の向上と閲覧数が前年度の 20% 増 (写真掲載率 95% 以上) を目指す。	年間行事スケジュール, 入試概要, 募集要項の作成を 1 学期中に終わらせる。
広報活動の質を高める	① ホームページの更新頻度を高める。 (1) 学年輪番制・広報部輪番制によるブログ更新制度を確立する。 (2) 部活動など行事以外でも全先生方が、タイムリーな情報の提供を行う。 (3) SNS を利用した情報の発信を行う。 LINE, バナー, HP への導線を整える。 (4) 使用可能な写真を速やかに選定する ② 学校・塾訪問活動の質の向上 (1) 中学受験 大手塾本部への訪問活動の実施, 実績のある教室への訪問活動と状況報告を行う。 (2) 高校受験 年間通じての電話連絡と資料発送による業務の効率化を図る。実績のある教室への訪問活動と状況報告を行う。 ③ 外部研修の参加 広報部のレベルアップ ⇒ 職員会議での共有	① 3 月に次年度の年間活動計画表を作成する。4 月の運用から毎月振り返りと分析を行い, 翌月に繋げる。 ② 各イベントの前後で情報共有し, 少なくとも学期毎の報告を行う。 ③ 年間通じて, 他校のイベント状況 (中学学校公開日の実施方法や説明会頻度など) を確認する。

	⇒ 学園全体のレベルアップ 本校の立ち位置と現状をしっかりと把握する。	9月までには情報を集約し、10月、11月のイベントに備える。
--	--	--------------------------------

管理運営(分掌・会議・委員会、財政、施設・設備等)

改善取組項目	取組方策	取組スケジュール
法人事務	<p>法人事務局の業務を充実する。</p> <p>令和7年4月1日付 学校法人のガバナンス改革を軸とする私立学校法の改正が控えているため、再構築されたガバナンス体制を維持しつつ、法改正に則した、迅速かつ効率的な法人運営を目指すよう準備する。</p> <p>理事会、評議員会、執行部会の運営、日本大学本部、東京都、目黒区との対応、公文書、公印管理、議事録作成、各種規程の改廃、法人保険取扱等法人業務を実施する。</p> <p>また、学園資産の一部損失に係る損害賠償請求訴訟に係る業務を引き続き行う。</p>	<p>理事会は原則隔月開催、執行部会は週1回開催、日大・都・区対応及び規程の改廃は理事会決議に応じ対応する。</p>
総務事務	<p>(庶務)</p> <p>個々の担当業務における理解度は、昨年度と比較して高まったと思われるが、総務全体としての業務理解度をさらに向上させる必要がある。個々の担当業務の枠にとらわれず、広い視野を持って業務を遂行することが求められる。</p> <p>園児・生徒在籍管理、就学支援金・奨学金等保護者負担軽減事務、各種証明書類発行、教科書発注取扱、福利厚生施設利用管理、生徒保険取扱、幼稚園事務全般を実施する。</p> <p>(人事)</p> <p>庶務同様、個々の担当業務における理解度を向上させる必要がある。また、労務管理を正確に行うにあたり、教職員の現状を把握し是正していく。</p>	<p>(庶務)</p> <p>在籍管理は園児・生徒の異動により対応、保護者負担軽減事務は各自治体スケジュールに応じ対応する。</p>
管財事務	<p>令和5年度、新校舎第1期工事竣工10年を迎えることから、建物、構築物及び機器備品等の更新が必要となる為、特定の年度に集中しないよう3～5年程度のスパンで更新計画を検討する。</p>	<p>優先順位及び補助金の有無を調査しつつ、予算等総合的に判断しながら計画し、令和5年度は、総合棟を中心にエアコン更新工事(7月～8月)及び普通教室(1階、2階)の電子黒板更新工事(8月)等を実施する。</p>
経理事務	<p>預り金専用システムを導入する。</p>	<p>令和5年度分より対応する。</p>

以上